

## 5 今年度の重点課題 (学校アクションプラン)

令和6年度 雄山高等学校アクションプラン		- 1 -
重点項目	(1 学習活動) 学習活動	
重点課題	教科指導方法の改善と基礎学力の定着・充実	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた課題に真面目に取り組んでいる生徒がいる一方で、自身の進路に対する具体的な目標を明確に持てないため、学習意欲が低く、家庭学習時間が十分に確保できていない生徒もいる。また、予習・復習にかける時間に個人差があり、基礎学力が十分に定着していない生徒が多い。</li> <li>教員間での互見授業や生徒に対して授業アンケートを行い、校内外の教員や生徒からの評価をもとに、各先生方で授業改善に取り組んでいる。</li> </ul>	
達成目標	①生徒の授業内容の理解度 5段階評価で4以上とした生徒の割合	②学習内容を理解するための、粘り強い 取り組みの状況 5段階評価で4以上とした生徒の割合
	70%以上	60%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート等を用いて、生徒の理解度を把握し、授業改善につなげる。</li> <li>授業アンケート(7月・12月)を実施し、実態を把握する。</li> <li>ICTを活用し、理解や思考の深まりを促す。</li> <li>生徒の主体的な学びを促すために、ペアやグループでの協働的な学びの場面や自らの考えを広げて深める対話的な学びの場面を設定する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケート(7月・12月)を実施し、実態を把握する。</li> <li>基礎学力定着に向けて週末(週間)課題等を工夫して与え、生徒が学習習慣を身に付けられるようにする。</li> <li>担任による個別面接等で生徒の学習の取り組み状況を把握し、進路目標と絡めて主体的に学ぶ意欲を喚起する。</li> <li>具体的な進路目標をもたせられるよう学年や進路指導部と連携をし、自分に合った学習の進め方を考えさせ、計画的に学習に取り組ませる。</li> </ul>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)

令和6年度 雄山高等学校アクションプラン		- 2 -
(2 学校生活) 規範意識の向上と保健指導		
重点課題	①遅刻者数の減少 ②スマートフォン等、端末機器の節度ある使用	自己解決能力を育む
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒一人あたりの年間平均遅刻数は下記のように推移している。 R3年度…0.85回 R4年度…0.78回 R5年度…0.89回</li> <li>②スマートフォン等の利用に関する調査から下記のような結果がみられた。 ・1日(平日)の平均利用時間 3時間未満…42% (5時間以上18%) ・何時まで利用しているか? 23時以降…54% (朝3時まで使用…3%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>心身の不調が睡眠不足や生活習慣の乱れにつながり、授業や部活動に集中できない生徒がいる。</li> <li>悩みや不安の解消方法がわからない生徒が増えている。</li> <li>保健室の来室状況において「気持ち」が来室理由の上位にある。</li> </ul>
達成目標	①生徒一人あたりの年間平均遅刻回数 1.0回未満	③心の不調に対する自己解決能力の育成
	②1日平均利用時間 2時間未満…50% 23時以降使用しない。…60%	生徒が、悩みや不安が原因で心身の健康を害する前に予防的手立てがとれるようになる。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>①正門前に立ち、登校の様子等を巡視するとともに、特に時間ぎりぎりに登校してくる生徒に対しては、声かけ指導等を行う。また、遅刻2回の生徒に対しては面談を行い、原因を振り返らせるとともに、改善策を立て、生活習慣の見直しを促す。</li> <li>②全校集会やHR、ネットトラブル防止教室等を利用し、スマートフォンの正しい使い方や長時間使用による健康被害や危険性等について周知する。また、生徒会や風紀委員会にスマホ使用ルール等について話し合いを持ってもらうことで、スマートフォン等端末機器との向き合い方についての啓発活動につなげる。アンケートを実施し、使用状況を確認する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートを年2回実施し、自分の生活を振りかえって心身の健康課題を把握し、それを改善する方策について考える機会とする。</li> <li>「保健だより」や生徒保健委員会で、ICTを活用し、心身の健康に関する情報を発信する。</li> <li>SCによる講話等を行い、心の健康を保つための知識と理解を深める。</li> <li>リフレーミングなどを活用し、物事を多角的にとらえる柔軟性を身につける。</li> </ul>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)

令和6年度 雄山高等学校アクションプラン		- 3 -
重点項目	(3 進路支援) 進路実現を図るための基礎力の充実	
重点課題	進路意識の向上と進路支援の充実	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会とのかかわりの中で自己を見つめ、自らの進路を具体的に考えようという意識に乏しい生徒が多い。</li> <li>・進路実現に向け、向上心を持って主体的に挑戦する姿勢に乏しい。</li> </ul>	
達成目標	① 1、2 学年生徒へのアンケートで、自己の進路選択に活用するため、進路学習に積極的に取り組むことができたとする生徒の割合	② 3 学年生徒へのアンケートで、進学補習・面接練習・個別指導などの進路支援に対して肯定的にとらえていた生徒の割合
	90%以上	90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間を有効に使い、適性検査及び進路ガイダンス、校外進路学習、職業人講話、立山町企業見学、インターンシップなどを行うことにより、自己を見つめ、自己理解・社会理解を深めるようにする。</li> <li>・担任面接の機会を重視し、生徒の進路意識を向上させるようにする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパス、学校説明会、職場見学に意欲的に参加できるように適切な情報を随時提供する。</li> <li>・補習や全教員による個別指導などとおして基礎学力を定着させ、目標達成に向けて更なる進展を図る。</li> <li>・面談を重ねることにより、生徒の志望を確かなものとし、受け身ではなく、自ら十分に準備をして受験に臨めるよう対応する。また、保護者懇談会の機会を利用して、家庭との連携の緊密化を図り、協力を求める。</li> </ul>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)

令和6年度 雄山高等学校アクションプラン		- 4 -
重点項目	(4 特別活動) 特別活動および図書指導の充実	
重点課題	ボランティア活動の充実および読書習慣の確立	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会からの呼びかけによる校内ボランティアや地域でのボランティアに参加する生徒が一定数いる。昨年のボランティア経験率は、55.7%であった。</li> <li>・ボランティアに複数回参加する生徒もおり、他学年の生徒と一緒に協力しながら、自分が地域や学校で役立っている喜びを感じている。ただ、1年生やボランティアに参加したことのない生徒が、どんな活動をしているのか見通しを持ちにくい現状がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書好きの生徒がいる一方で、全体として図書に対する興味・関心は依然として低い。そのため、HRや授業での図書室の利用を除くと、自発的に図書室を利用するのは一部の生徒だけである。昼休みや放課後など、図書委員を中心に来館者は微増しているが、生徒全体には、広がっていない。</li> </ul>
達成目標	① ボランティアに一度でも参加した生徒の割合	② 一日当たりの平均図書室利用者数
	70%以上	12人以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会から、ポスターや校内放送で、どんな活動をするのかわかるように発信し、未経験の生徒にも見通しがもてるようにするとともに、ボランティアの意義を発信する。</li> <li>・生徒会が企画する活動や、地域で行う活動など、参加する機会を多く設定する。</li> <li>・ボランティア活動体験率の把握に加え、ボランティアをやってよかったことをアンケート調査する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室の利用者総数とクラス別の図書貸出総数を掲示する。</li> <li>・授業やHRでの図書室活用を促進し、読書へのきっかけを拡大していく。また資料となる書籍の充実に努める。</li> <li>・図書委員会の活動の活性化を図り、図書室利用を促進する。</li> <li>・図書委員のアイディアを積極的に生かし、図書選定を行ったり特集コーナーを設けたりし、読書の魅力をアピールする。</li> <li>・検定や小論文対策の書籍・資料コーナーをさらに充実させ、生徒が活用しやすいよう工夫する。</li> </ul>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)

重点項目	(5 その他) 専門科目(家庭)の学習指導の充実			
重点課題	専門科目の基礎的、基本的な知識と技術の習得を図るとともに、生活文化科での学びに対する達成感や充実感を高める。			
現 状	・中学校での家庭科の学習内容の縮減や、家庭や地域における生活体験の希薄化により、家庭に関する基礎・基本が定着しにくく、創意工夫の意欲が乏しい生徒が増えている。			
達成目標	①家庭科技術検定における合格率・取得率		②卒業時における生活文化科に対する満足度として、3学年生徒へのアンケートを実施し、生活文化科で学んで「よかった」と答えた生徒の割合 90%以上	
			合格率(受検者数に対する割合)	取得率(在籍者数に対する割合)
	4・3級	食物調理 被服製作	100%	100%
	2級	食物調理 被服製作(洋服)	85%	85%
		〃 (和服)	80%	80%
	1級	食物調理 被服製作(洋服)	85%	55%
〃 (和服)		85%	40%	
※2級(和服)、1級は選択者が受検している。 ※前年度までの実績と今年度の生徒の実態をふまえ、検定ごとに目標を設定した。				
方 策	・家庭科技術検定合格に必要な学習指導、実技指導の徹底を図る。		・専門科目全般の学習指導および体験的総合的な学習の充実を図る。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)